

# ウクライナと日本の孤食について

## Solitary Eating in Ukraine and Japan

**Sonya Anopa**

82-371: Advanced Japanese I  
上級日本語 I

この作文では、孤食について述べたいと思う。今、朝ごはんを子供だけ食べる割合が増えている。だから二十数年前の子供が一人で食べたら、寂しかった。しかし、今一人で食べる子供が多くなっているから、もう寂しくないようだ。孤食は当然になっているから、子供がコミュニケーション能力が育たないし、食事マナーも伝わらないし、大人になっても誰かと一緒に食べられない。親も子供も忙しいから、この問題が起きた。発達心理学者の室田せんせいはこの問題についてアドバイスが二つある。第一のアドバイスは子供と食べられない時にも食卓にいることだ。第二のアドバイスは一緒に食べると楽しいと子供に思ってもらうことだ。ウクライナにも孤食する子供がいるけど、孤食をすることは好きじゃないと思う。だから、日本とちょっと違うと言える。たぶん、朝ごはんを一人で食べる子供は多くて、晩御飯を一人で食べる子供が少ないと思う。だから、孤食することが楽しくなれなかったかもしれない。日本の解決法はいいアイデアと思う。日本人は食育のことについて考えて、話すから、問題について本当に考えているみたいだ。ウクライナは学校で食事について話すけど、学校の外では討論がないと思う。それだから、日本の食育の考え方の方がウクライナの考え方よりいいと思う。結論として、日本とウクライナは少し似ているが、解決法が違うと考える。